

## モザンビーク

## The Republic of Mozambique

	2014年	2015年	2016年
①人口: 2,642万人(2016年推計)			
②面積: 79万9,380km <sup>2</sup>			
③1人当たりGDP: 435米ドル (2016年推計)			
④実質GDP成長率(%)	7.4	6.6	3.8
⑤消費者物価上昇率(%)	1.9	10.6	25.3
⑥失業率(%)	n.a.	n.a.	n.a.
⑦貿易収支(100万米ドル)	△4,035	△4,163	△1,459
⑧経常収支(100万米ドル)	△5,797	△5,968	△4,195
⑨外貨準備高(グロス) (100万米ドル)	2,882	1,994	2,023
⑩対外債務残高(グロス) (100万米ドル)	6,918	8,081	8,632
⑪為替レート(1米ドルにつき、 メティカル、期中平均)	31.35	39.98	63.06

【出所】①②④⑤⑦⑧⑩: モザンビーク統計庁年次レポート(INE)、③⑪: IMF、⑨: モザンビーク中央銀行年次レポート

2016年のモザンビークの実質GDP成長率は、非開示債務問題発覚による財政危機、通貨急落などの影響を受け、前年の6.6%を下回る3.8%に留まった。2017年は天然ガス開発の進展に伴い4.5%成長への回復が見込まれる。貿易は、景気低迷により一般機械や自動車の輸入が大幅減となり、経常赤字は減少した。対日貿易は、製鉄用原料炭の生産・輸出の本格化と日本からの中古車輸入の減少により、貿易黒字に転換した。

### ■非開示債務発覚により成長大幅減

2016年のモザンビーク経済の実質GDP成長率は3.8%と前年の6.6%を大きく下回り、過去17年間で最低の水準となった。2016年4月に発覚した総額20億ドルに上る国営企業3社への政府保証付き対外債務が非開示であったことを受け、国際通貨基金(IMF)や主要ドナー14カ国が一般財政支援を凍結した。同国の公的債務残高と対外債務残高がそれぞれGDP比113.6%、76.6%まで上昇したことを受け、危機的な財政状況にあると判断した大手国債格付け機関は軒並み格下げを実施。米スタンダード&プアーズは2017年1月にモザンビークの長期外債建て国債を「選択的デフォルト」に格下げした。さらに、国際的な信用低下を受けて、通貨メティカルは米ドルに対して前年比57%安に急落。これに伴い消費者物価上昇率は16年平均で25.3%(前年10.6%)となり、輸入に依存する経済に打撃をもたらした。経常収支は、景気低迷による輸入の大幅減に伴う貿易赤字の改善により、赤字額は前年比3割減となったが、依然として赤字額はGDP比38.2%と高い水準にある。民間最終消費支出、政府最終消費支出ともに5.1%(前年3.0%)、4.8%(同

表1 モザンビークの需要項目別実質GDP成長率

(単位: %)

	2014年	2015年	2016年
実質GDP成長率	7.4	6.6	3.8
民間最終消費支出	△2.1	3.0	5.1
政府最終消費支出	15.6	1.8	4.8
国内総固定資本形成	24.0	△24.9	△29.9
財貨・サービスの輸出	4.7	11.2	1.2
財貨・サービスの輸入	△2.9	1.3	8.3

【出所】モザンビーク統計庁(INE)

1.8%)成長となり、景気を底支えした一方、企業の業績不振や大型プロジェクトの停滞を反映して、設備投資が伸び悩み、総固定資本形成は29.9%減少し、成長を大きく押し下げた。

2017年は国際資源価格の回復や北部ロブマ沖の天然ガス田開発の決定などを受けて、再び4.5%成長に上向くと予想されている。非開示債務問題についてはIMFの要請により2016年11月から国際独立監査が行われ、2017年5月に報告書の要約が公開された。総額20億ドルのうち約5億ドルが今も用途不明のままとなっているなど依然として不明点が多く、IMFは引き続き政府に対して真相究明と財政再建に向けたさらなる努力を要請している。

表2 モザンビークの主要品目別輸出入<通関ベース>

(単位: 100万ドル、%)

	2015年		2016年	
	金額	金額	構成比	伸び率
輸出合計(その他含む、FOB)	3,413	3,355	100.0	△1.7
アルミニウム製品	922	887	26.4	△3.8
石炭	375	719	21.4	91.6
電力	317	378	11.3	19.4
天然ガス	273	276	8.2	1.1
タバコ	258	206	6.1	△20.0
重砂	161	190	5.7	17.7
貴石・貴金属	90	101	3.0	12.2
輸入合計(その他含む、FOB)	7,577	4,814	100.0	△36.5
一般機械	1,555	970	20.1	△37.6
原油	691	635	13.2	△8.1
アルミニウム	443	428	8.9	△3.4
建設資材	654	403	8.4	△38.3
自動車	441	211	4.4	△52.1
医薬品	314	210	4.4	△33.1
電力	224	176	3.7	△21.3

【出所】モザンビーク中央銀行年鑑(2016年)

表3 モザンビークの主要国・地域別輸出入<通関ベース>

(単位:100万ドル、%)

	輸出 (FOB)					輸入 (FOB)			
	2015年		2016年			2015年		2016年	
	金額	金額	構成比	伸び率		金額	金額	構成比	伸び率
オランダ	952	849	25.3	△10.8	南アフリカ共和国	2,380	1,443	30.0	△39.4
南アフリカ共和国	713	706	21.0	△0.9	シンガポール	150	388	8.1	158.7
インド	321	676	20.1	110.3	中国	874	380	7.9	△56.5
中国	204	143	4.3	△30.1	アラブ首長国連邦	342	345	7.2	0.9
シンガポール	75	141	4.2	88.4	インド	317	296	6.1	△6.5
米国	58	98	2.9	68.0	ポルトガル	357	278	3.5	△22.1
スペイン	27	68	2.0	153.8	ドイツ	93	129	2.7	38.4
英国	84	59	1.8	△29.7	オランダ	564	115	2.4	△79.7
ベルギー	89	46	1.4	△47.9	米国	124	110	2.3	△11.5
ジンバブエ	90	45	1.3	△49.7	英国	96	102	2.1	6.3
合計(その他含む)	3,413	3,355	100.0	△1.7	合計(その他含む)	7,577	4,814	100.0	△36.5

[出所] モザンビーク中央銀行年鑑(2016年)

### ■輸入の大幅減により貿易赤字は圧縮

モザンビーク中央銀行によると、2016年の貿易(通関ベース)は、輸出が前年比1.7%減の33億5,500万米ドル、輸入は同36.5%減の48億1,400万米ドルとなり、景気減速、大型投資プロジェクト停滞による輸入の減少が顕著となった。貿易収支は14億5,900万米ドルの赤字となったが、前年の41億6,300万米ドルの赤字から大幅に改善した。

輸出を品目別にみると、三菱商事が25%出資を行うアルミニウム製錬企業モザールによるアルミニウム製品の輸出が構成比26.4%と最大のシェアを占めたが、同製品の国際市況の低迷を受け、輸出額は3.8%減となった。一方で、ブラジル大手資源企業ヴァーレと三井物産が開発を行う北西部テテ州のモアティゼ炭鉱の生産が本格稼働したことを受け、石炭の輸出は金額ベースで前年比91.6%増となり、構成比も21.4%まで上昇した。そのほか、カオラ・ボッサ水力発電所からの南アフリカ共和国(以下、南ア)向けの電力輸出や、重砂、貴石・貴金属(ルビー、サファイア)の輸出も10%台の増加となった。干ばつの影響を受けてタバコをはじめとする農産品の輸出は減少した。国別ではインド向けの石炭輸出の好調を受けて、同国向けの輸出額は前年比110.3%増となり、輸出上位2カ国(オランダ、南ア)との差を縮めた。

輸入を品目別に見ると、景気減速による国内需要の縮小を背景に、一般機械(金額ベースで37.6%減、構成比20.1%)、建設資材(38.3%減、同8.4%)、自動車(52.1%減、同4.4%)、医薬品(33.1%減、同4.4%)などが大幅減となった。国別に見ると、一般機械や消費財の主要輸入相手国である南ア(構成比30.0%)、中国(同7.9%)がそれぞれ金額ベースで39.4%、56.5%の大幅減となった。

### ■対内投資額は前年比2割減

モザンビーク中央銀行の発表によると、2016年の対内

直接投資額(国際収支ベース、ネット、フロー)は前年比20.0%減の30億9,300万ドルとなり、過去6年で最低の水準となった。非開示債務問題による国際的な信用低下や国際資源価格の低迷が投資意欲の減退につながったとみられる。しかし、対内投資額のGDP比は約3割と依然として高く、累積投資残高ではチュニジアを抜いてアフリカ54カ国中6位となった。

セクター別では鉱業分野への投資が前年比13.1%減の17億4,900万ドル(構成比56.5%)で最大であった。景気減速が鮮明な中でも卸・小売業(同4.7%)とホテル・外食・観光業(同3.2%)向けの投資はそれぞれ前年比168.5%、89.1%の増加となった。

表4 モザンビークの国・地域別対内直接投資<国際収支ベース、ネット、フロー>

(単位:100万ドル、%)

	2015年	2016年		
	金額	金額	構成比	伸び率
南アフリカ共和国	236	903	29.2	282.8
アラブ首長国連邦	1,474	589	19.0	△60.1
イタリア	245	408	13.2	66.1
モーリシャス	440	320	10.4	△27.3
米国	741	286	9.3	△61.3
オーストラリア	102	103	3.3	0.6
ポルトガル	78	80	2.6	1.5
パナマ	86	37	1.2	△56.7
フランス	26	34	1.1	32.4
中国	52	34	1.1	△35.9
合計(その他含む)	3,867	3,093	100.0	△20.0

[出所] モザンビーク中央銀行年鑑(2016年)

表5 モザンビークの業種別対内直接投資<国際収支ベース、ネット、フロー>

(単位:100万ドル、%)

	2015年	2016年		
	金額	金額	構成比	伸び率
鉱業	2,013	1,749	56.5	△13.1
運輸・通信業	899	537	17.4	△40.3
卸・小売業	54	144	4.7	168.5
製造業	149	132	4.3	△11.3
ホテル・外食・観光業	53	100	3.2	89.1
不動産・レンタル業	374	97	3.1	△74.0
合計(その他含む)	3,867	3,093	100.0	△20.0

[出所] モザンビーク中央銀行年鑑(2016年)

国別では、南ア(構成比 29.2%)が最大で、アラブ首長国連邦(以下 UAE、同 19.0%)、イタリア(同 13.2%)、モーリシャス(同 10.4%)、米国(同 9.3%)と続いた。UAE、モーリシャスとは二国間租税条約を締結しているため迂回投資も含まれるが、近年UAEは大型不動産・リゾート開発等の投資を積極的に行っている。

2016年10月、英国資源メジャーBPは、北部ロブマ沖で開発が進められる天然ガス田エリア4のコンソーシアムからLNGを20年間購入する契約を締結したと発表。この売買契約に基づき、2017年6月、同鉱区の主要オペレーターであるイタリア炭化水素公社(エニ)は約80億ドル規模の最終投資決定を行った。これに併せて、洋上LNGプラントのエンジニアリング・建設は日揮などによる受注が決まった。また2016年9月に三井物産は、ヴァーレと開発を進めるモアティゼ炭鉱およびナカラ回廊鉄道・港湾事業子会社の計7億6,800万ドル分の株式取得を発表。2017年3月に7億3,300万ドルの投資が実行された。

日本からの輸出については、自動車(中古車)の輸出がモザンビーク経済の冷え込みにより大幅に減少し、金額ベースで前年比69.6%減(構成比47.2%)の2,413万米ドルとなった。一方で、医薬品(同10.0%)と鉄鋼(同8.0%)の輸出はそれぞれ金額ベースで142.9%増、67.3%増と大きく伸びた。

### ■対日貿易は赤字から黒字に転換

日本の財務省の統計によると、2016年の日本のモザンビークからの輸入は金額ベースで前年比61.8%増の1億2,640万米ドル、輸出額は同63.2%減の5,100万米ドルとなり、対モザンビーク貿易収支は7,540万米ドルの赤字となった。前年は日本の輸入額が7,800万米ドル、モザンビークへの輸出額が1億3,900万米ドルだったことから、両国の貿易収支は入れ替わった。

日本の輸入については、2016年3月に北部ナカラ港からケープサイズ船で積み出された高品位強粘結炭が新日鐵住金の君津製鐵所に初入港するなど、製鉄用の石炭の対日輸出が本格化したことにより、石炭の輸入が前年比176.3%増の1億500万米ドル(構成比82.8%)となった。また、魚・甲殻類の輸入も同47.6%増となった。日系水産メーカーのエーワンが首都マプト近郊で輸出向けハマグリ加工を行っている。

表6 日本の対モザンビーク主要品目別輸出入<通関ベース>

(単位:100万ドル、%)

	2015年	2016年		
	金額	金額	構成比	伸び率
輸入合計(その他含む、FOB)	78	126	100.0	61.8
鉱物性燃料(石炭)	38	105	82.8	176.3
植物油	13	10	7.5	△28.0
魚・甲殻類等	2	3	2.5	47.6
鉱石	9	3	2.5	△64.4
貴金属	3	2	1.8	△17.9
輸出合計(その他含む、FOB)	139	51	100.0	△63.2
輸送機器(自動車)	79	24	47.2	△69.6
医薬品	2	5	10.0	142.9
鉄鋼	2	4	8.0	67.3
繊維製品	6	4	7.8	△27.3
鉄鋼製品	11	2	4.5	△79.8

[出所] 日本財務省統計